

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 5 月 2 日 9:21AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 31,500～38,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 36,500～42,200 ドル
(S&P500) 4600～5750

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 14,500～18,300

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～146.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～103.000

(おしらせ) 次回号リリースは 5 月 9 日(金)の予定です。

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



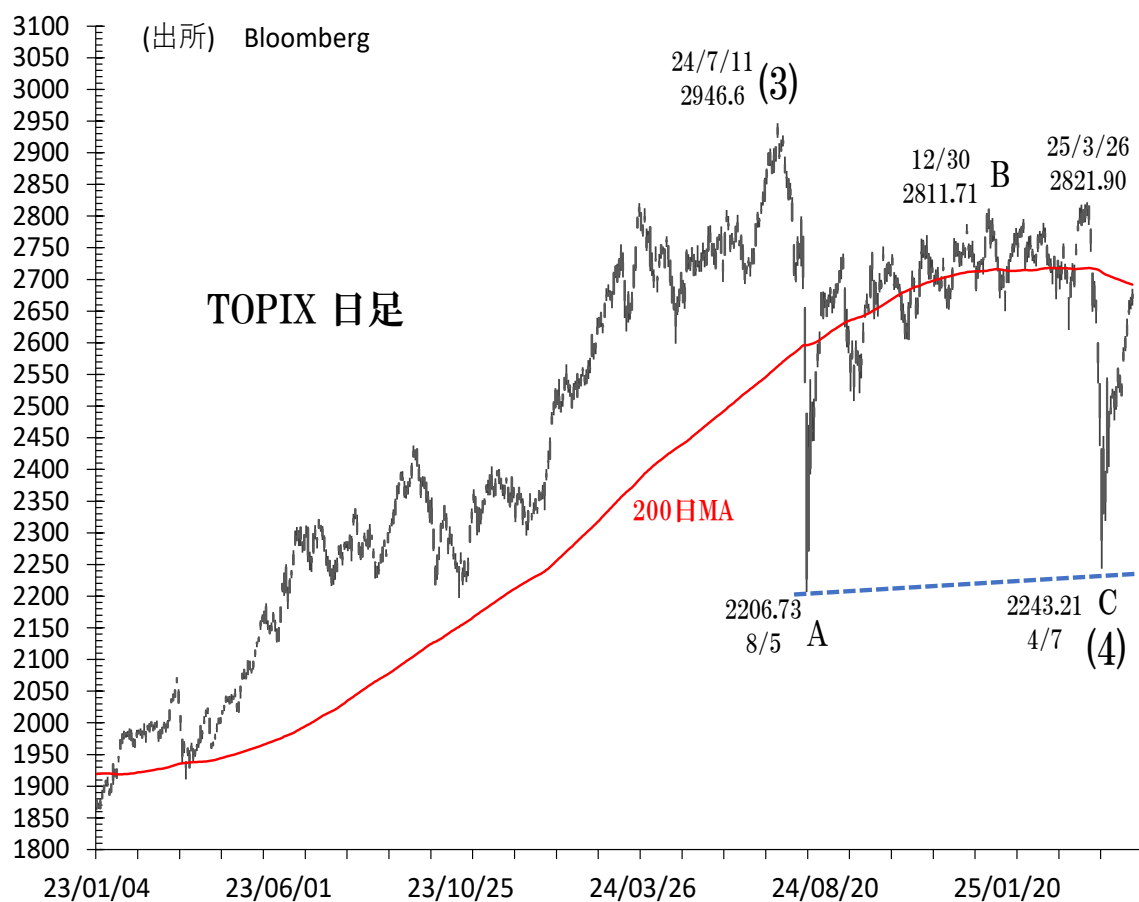
【週足 エリオット波動分析】

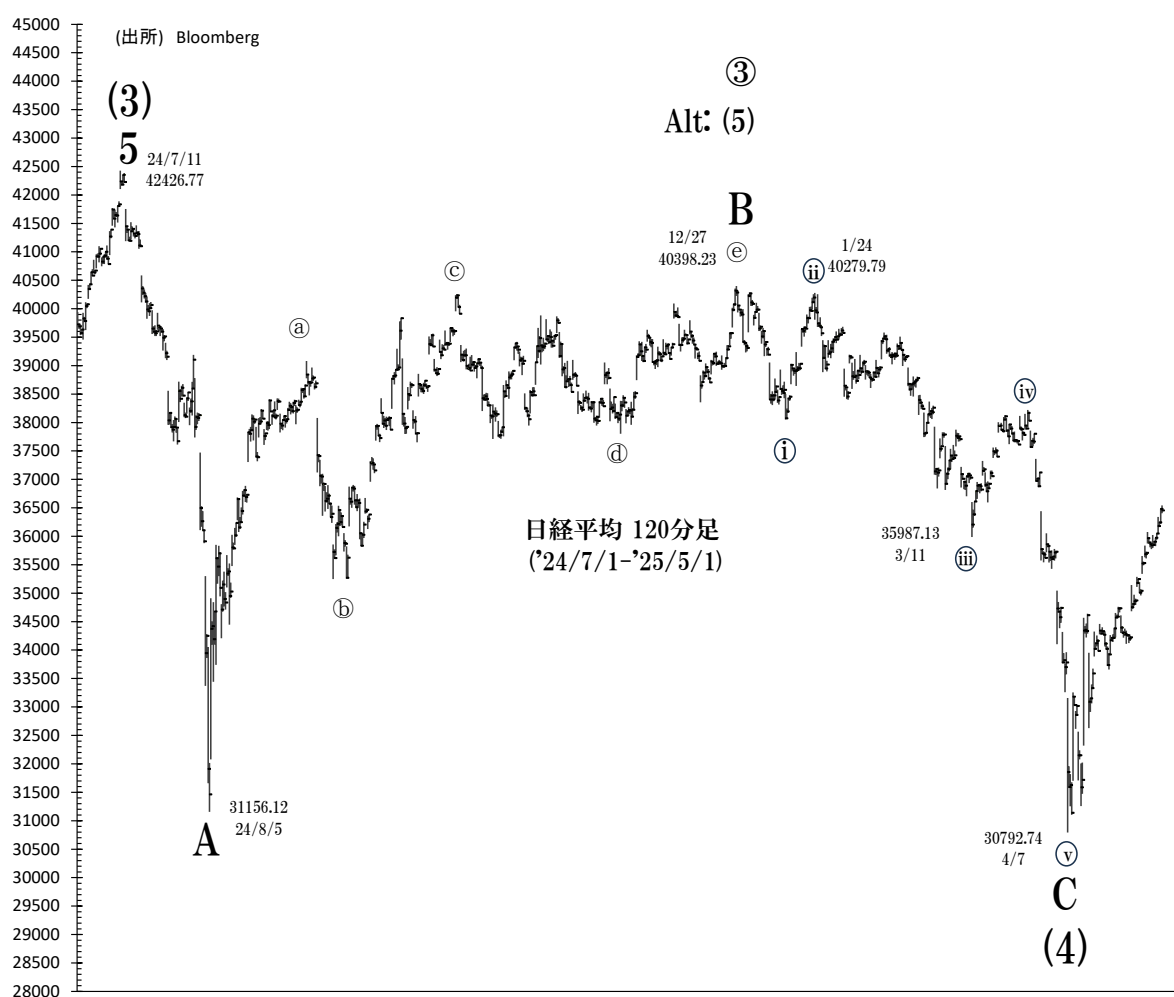
日経平均は、重要サポートとしての 200 週 MA を上回って推移しています。同 MA を今後も維持する限り、プライマリー上昇③波は依然継続中とみられます。

日経平均はインターミディエイト級第(5)波の上昇にあるとみられます。

昨年末時点において筆者は、2025 年に付ける日経平均の第(5)波メドを 4 万 3000 円～4 万 5000 円としていました。しかし米ナスダックの本格調整局面入りがより濃厚となった今では、日経平均(ナスダックとの相関が強い)の第(5)波高値は、以前想定していたものより低くなるとみるのが適当でしょう。

例えば TOPIX が今後数カ月内に 24 年高値(2946)を上回り、その一方で日経平均は 24 年高値(42,426 円)を上回ることができない、「未確認」という天井パターン出現も考慮しておく必要があります。





【日足・時間足 エリオット波動分析】

30,792 円(4/7 安値)から、インターミディエイト級(5)波による上昇が進行中とみられます。

TOPIX は 200 日 MA を足元でほぼ回復し、今では年初来高値 2821 (3/26)も視野に入ってきました。それに比べると日経平均は、200 日 MA (38,023 円) までには距離があります。さらに年初来高値(40,288 円)ともなると、現水準からかなり離れています。

このように **TOPIX 優位**は継続しており、**TOPIX が日経平均に先行する流れは今後も続くでしょう。**

5 月 1 日は TOPIX が 75 日 MA(2680)を一時上回っています。少し遅れて**日経平均も 75 日 MA(37,150 円処)**を打診するでしょう。

もっとも、今後は「やれやれの売り」圧力が強まってくるでしょう。第(5)波としての上昇基調が強まるまでには(戻り売りをこなすための)時間が必要でしょう。

(オルタナティブ・カウント)

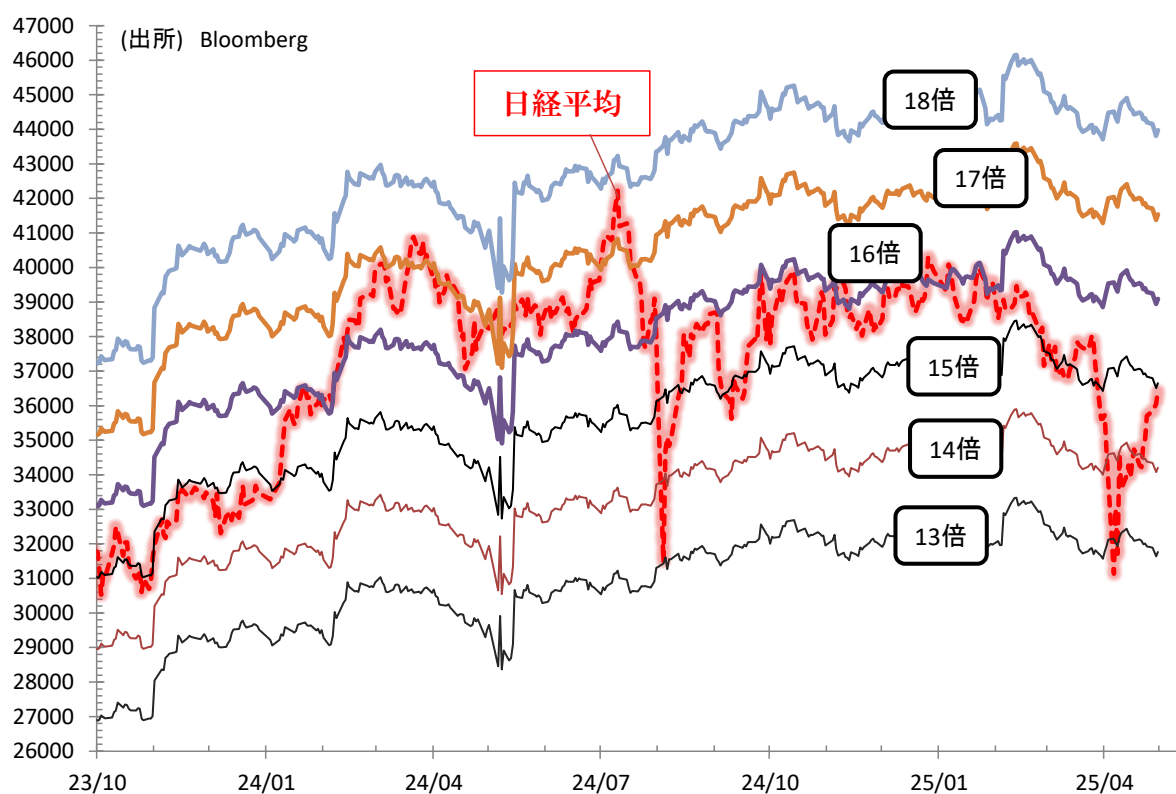
30,792 円を下抜くと以下の波動カウントに切り替えます。

24 年 8 月からの上昇第(5)波は 40,398 円(12/27 高値)を以て終わり—”truncated fifth”(短縮された 5 波)—プライマリー級の④波による調整が進行中とみられます。この場合 **日経平均は、いずれ 2 万 7000 円処(PBR1 倍水準)を試す可能性**があります。

[予想 PER 別の日経平均水準]

5 月 1 日の日経平均予想 PER は 14.92 倍、予想 EPS は 2443 円。

過去最高の EPS は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

4月7日には一時36,611ドルまで下げ、22年から上昇の半値押し[36,807ドル]を達成しました。昨年末に想定した通り、NYダウの調整規模は22年10月以降最大に拡大しました。

4月安値からの上昇は、第(4)波あるいは第(2)波によるリバウンド局面に位置付けられます。

このリバウンド基調がまだ続くなら、4月2日終値の[42,225ドル]—「トランプ関税発動」で生じたマドを埋める水準—を窺う展開があるかもしれません。42,200ドル付近は200日MAの水準でもあります。

しかし弱基調は続くと思われ、リバウンド後には第(5)波あるいは第(3)波による下落トレンドが続くことでしょう。その下落によりNYダウは、今後数週間から数カ月の内に4月安値36,611ドルを下抜く可能性があります。

22年1月～10月の(A)波は22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、より大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から22.4%下げる水準を求めると[34,977ドル]です。この付近には[34,930ドル](22年からの61.8%押し水準)があることから、3万5000ドルは中期下値目標として適当とみられます。



S&P500 週足

Alt: ④

⑤

③
(5)

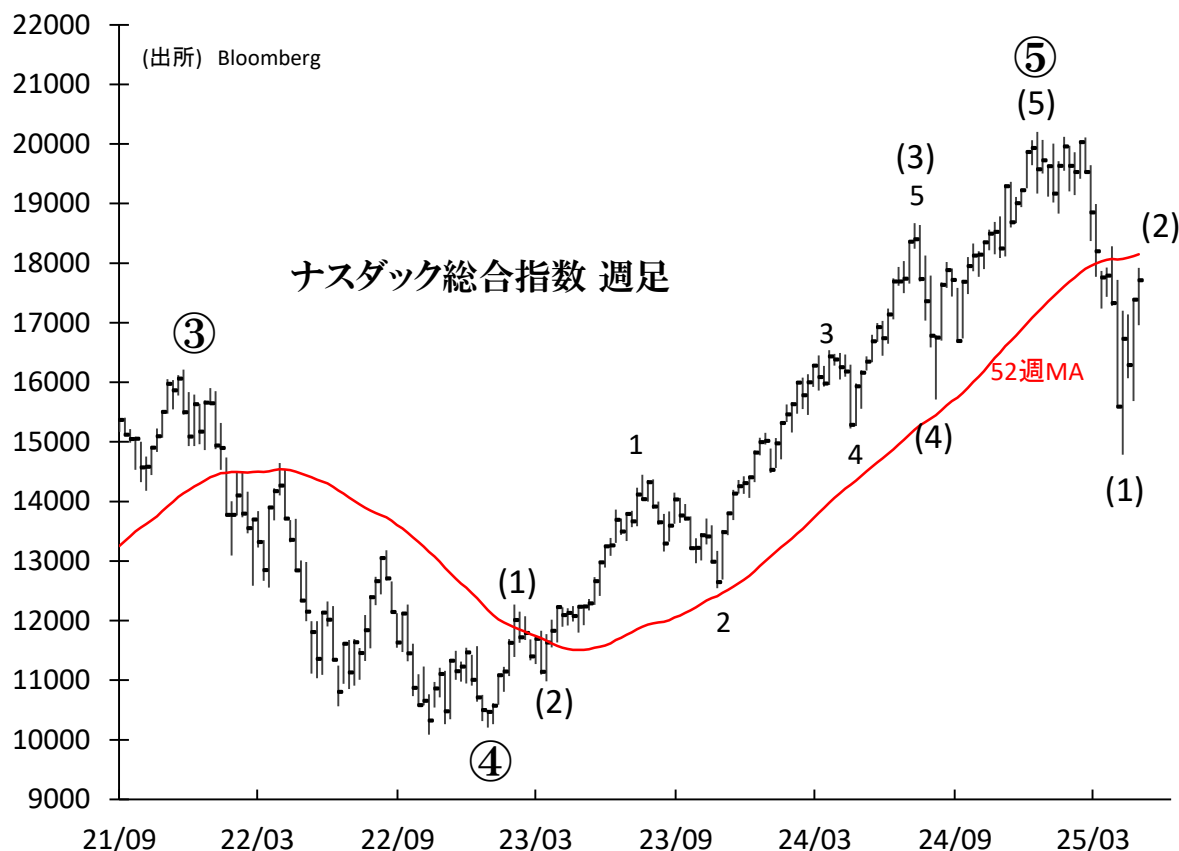
(4)

(A)

(1)

(B)

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、24 年 12 月安値(20,204)からサイクル級の調整が進行中とみられます。

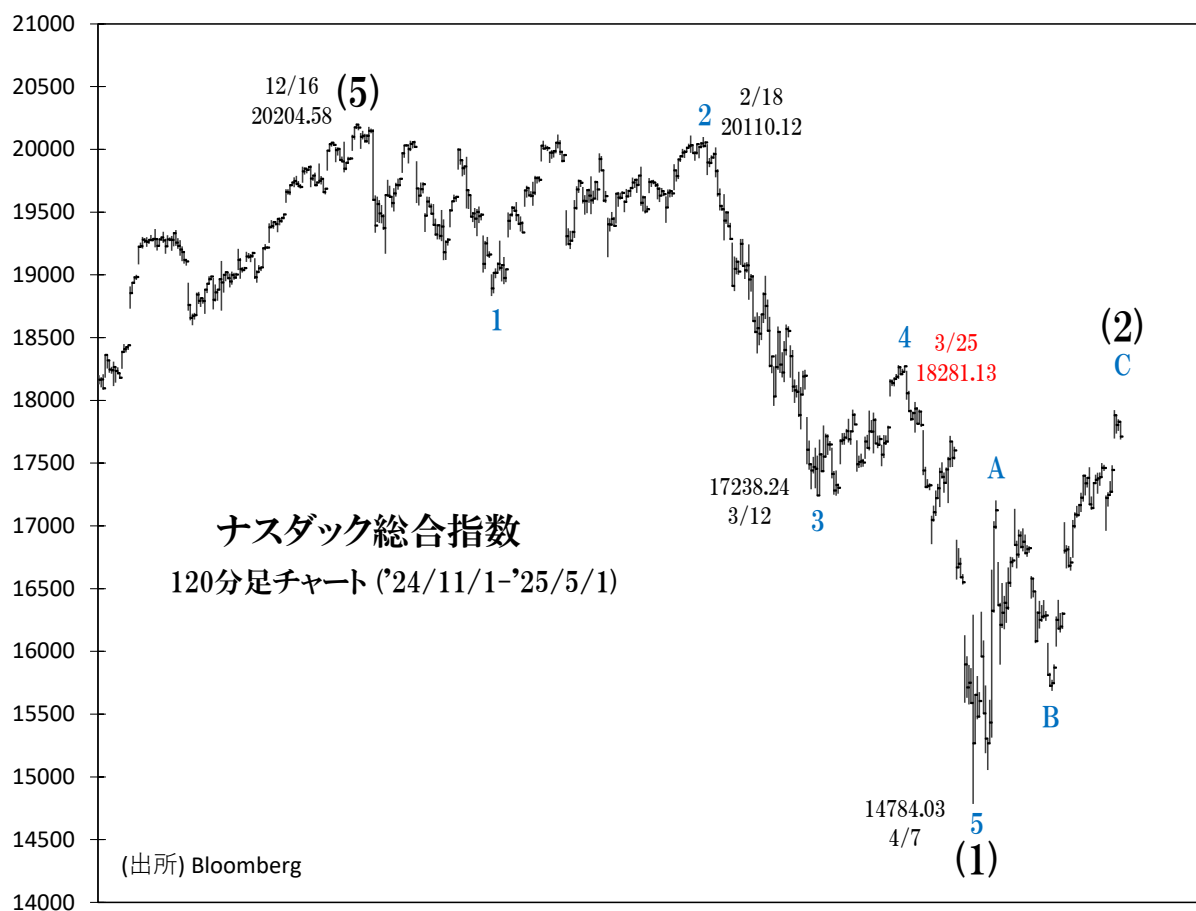
21 年～22 年のプライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。

今後 1～2 年という期間でみると、**[12,527]** (24 年 12 月高値から 38%下げる水準)へ下押す可能性もあるでしょう。

さらに、**先々④波安値[10,088]への下値試しとなる可能性にも留意**すべきでしょう。サイクル級の調整は、プライマリー級より上位の波動等級(ディグリー)であり、ディグリーが大きくなるに従い調整スケールも大きくなるのが通常です。

14,784(4/7 安値)からの第(2)波によるリバウンドは、まだ続いているかもしれません。もっとも、**リバウンド完了後には第(3)波の下落によって、14,784 を下抜く可能性に注意**が必要です。





【時間足 エリオット波動分析】

今回号より波動カウントを若干改め、24 年 12 月高値(20,204)から 4 月安値(14,784)までの下げを 5 波構成による第(1)波とします。

足元は第(2)波によるリバウンドとみています。

5 月 1 日は一時 17,922 まで上昇し、24 年 12 月からの下げ 61.8%戻り[18,133]に近づきました。このフィボナッチ・リトレースメントは、第(2)波中の A 波と C 波が等しくなる水準[18,104]に合致しています。

さらに上伸する場合のメドは、第(1)波のレッサー・ディグリー4 波高値 18,281(3/25)、200 日 MA(18,319)な どです。第(2)波によるリバウンドは終わったか、終わりつあると思われます。

16,959(4/30 安値)を割ると最初の弱気トリガーが発動され、それは第(3)波の下落スタートを示唆します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

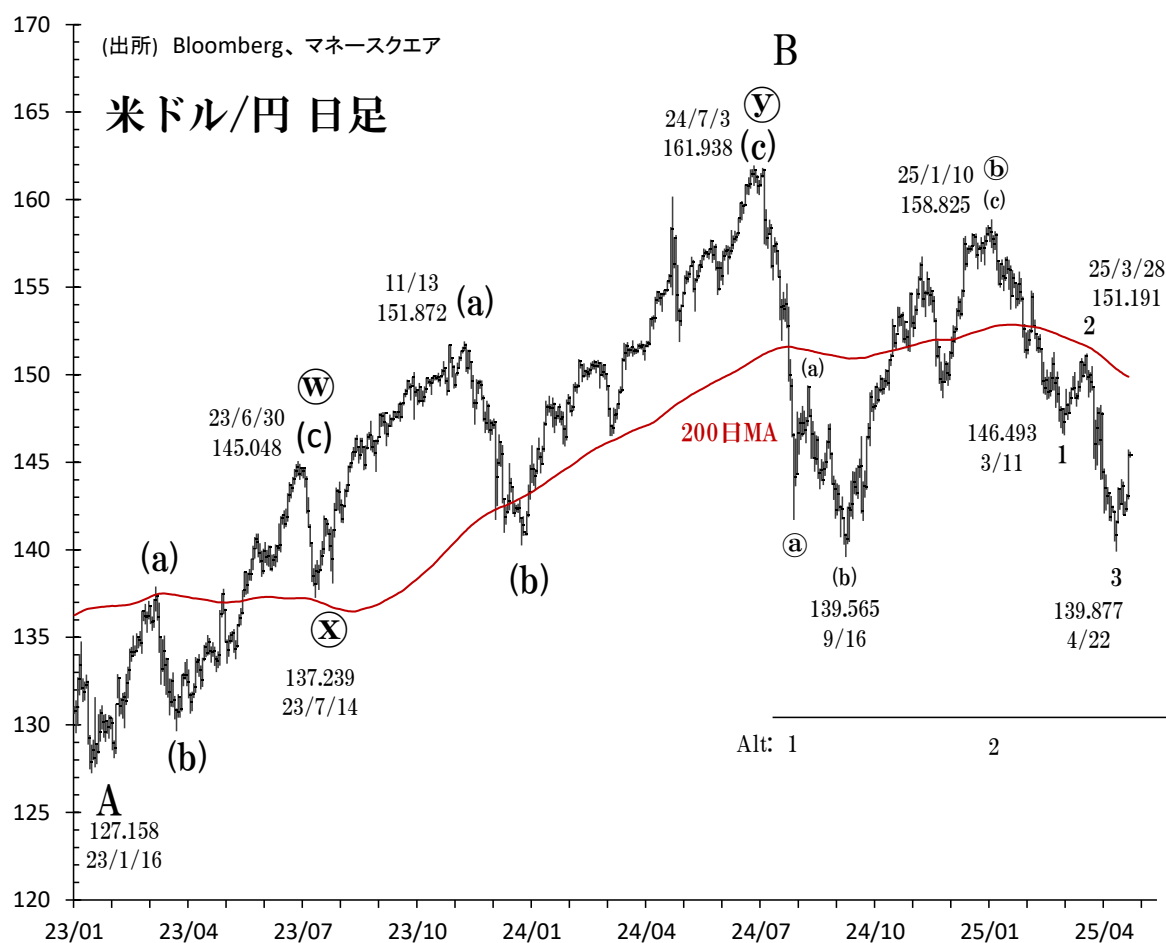
22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、まずは 2011 年からの上昇チャネルのセンターライン①136.680 円(5 月)がサポートレベルとみられます。

もっとも 139 円処を下抜くとヘッド・アンド・ショルダーズ型の天井パターンから下放れ始め—上述したセンターラインで底入れせず—フィボナッチ・サポートの[128.945 円]を試す展開もありそうです。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 117.050 円(5 月)です。





【日足 エリオット波動分析】

151.191 円(3/28)からの第 3 波によるドル安・円高は、139.877 円(4/22)で終わった可能性があります。そうであれば、足元は第 4 波によるリバウンドに位置付けられます。

第 4 波は 146.493 円が上限です(ノー・オーバーラップ)。足元ドル/円は 145 円台後半まで上昇していることから、リバウンドは何時終わってもおかしくないと思われます。

ただし見通しと異なり 146.493 円を上回るケースでは、139.877 円からを「マル ii 波のリバウンド」に改めます。

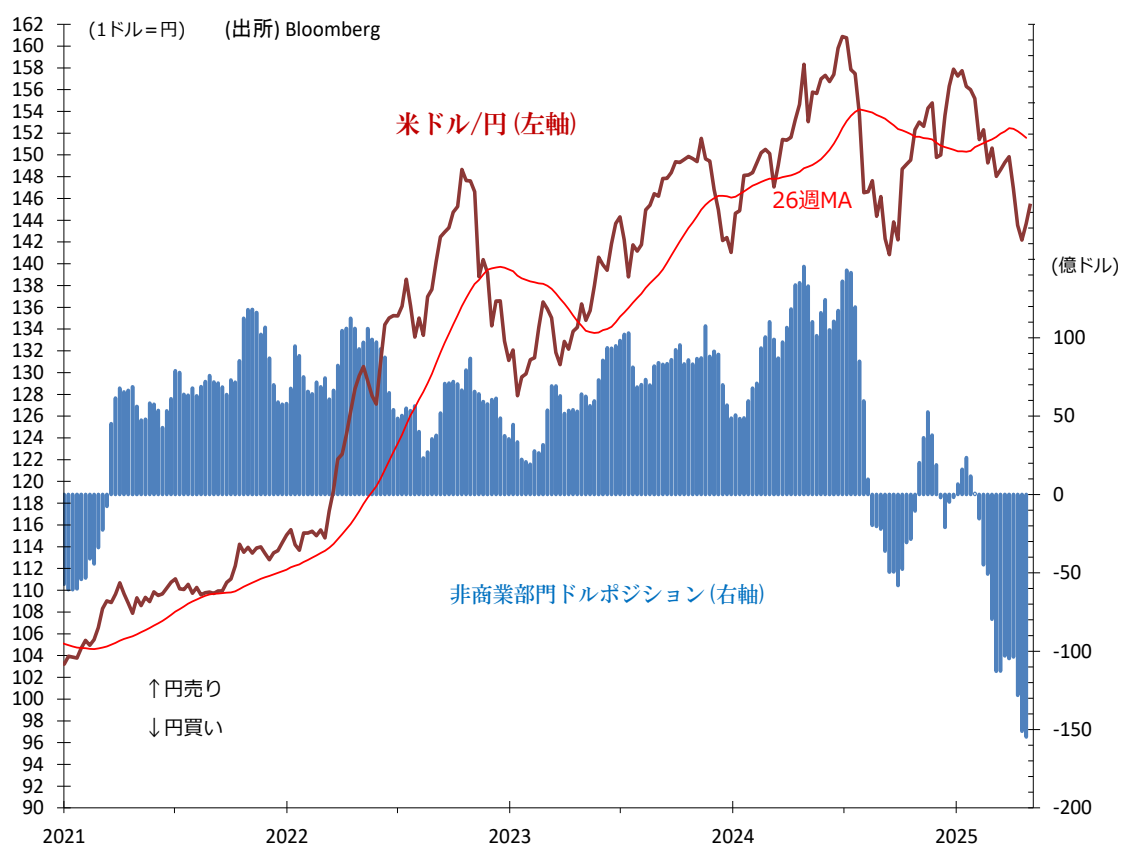
第 4 波を終了後は第 5 波によるドル安・円高に移り、それは 139.565 円を明確に下抜くでしょう。

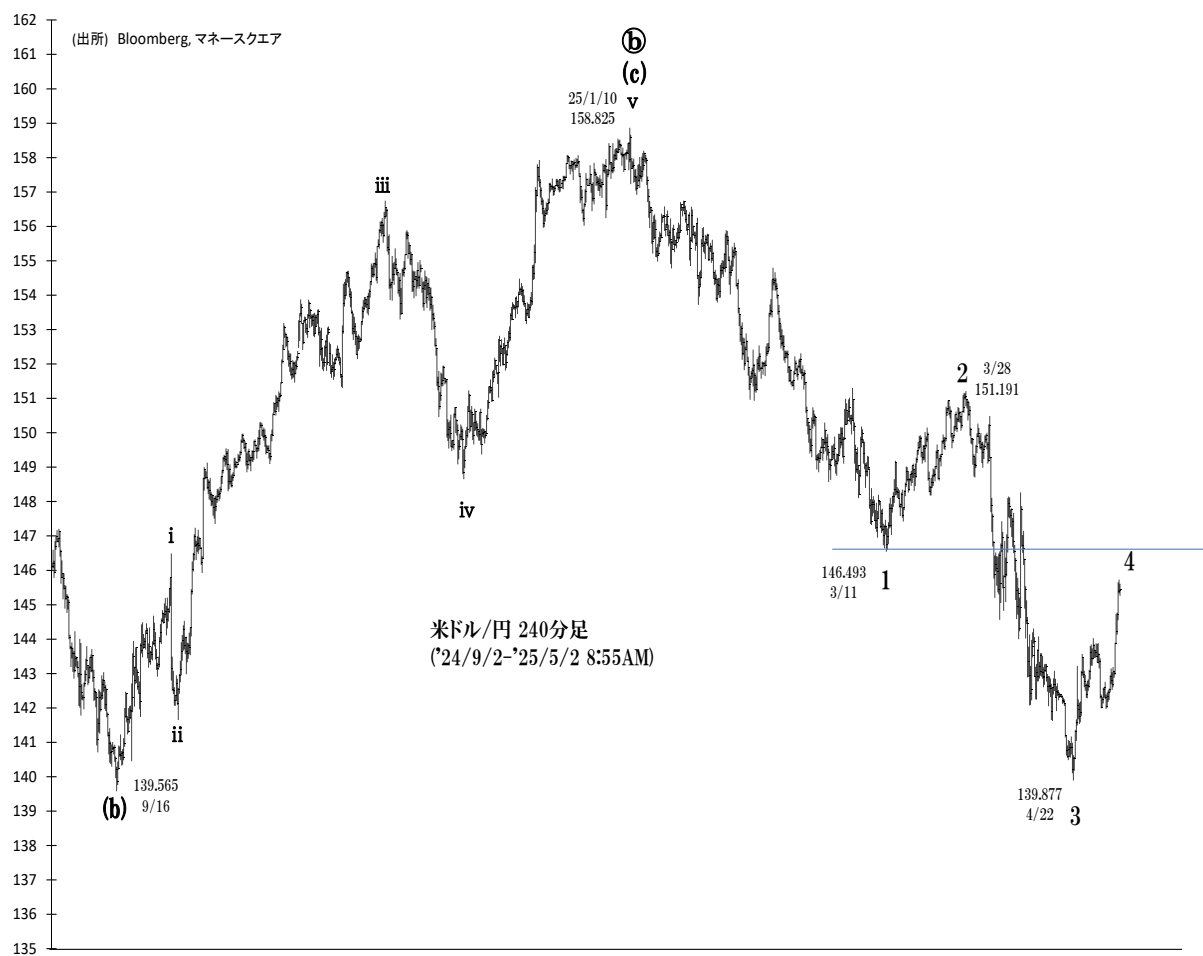
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[145.372 円]です。

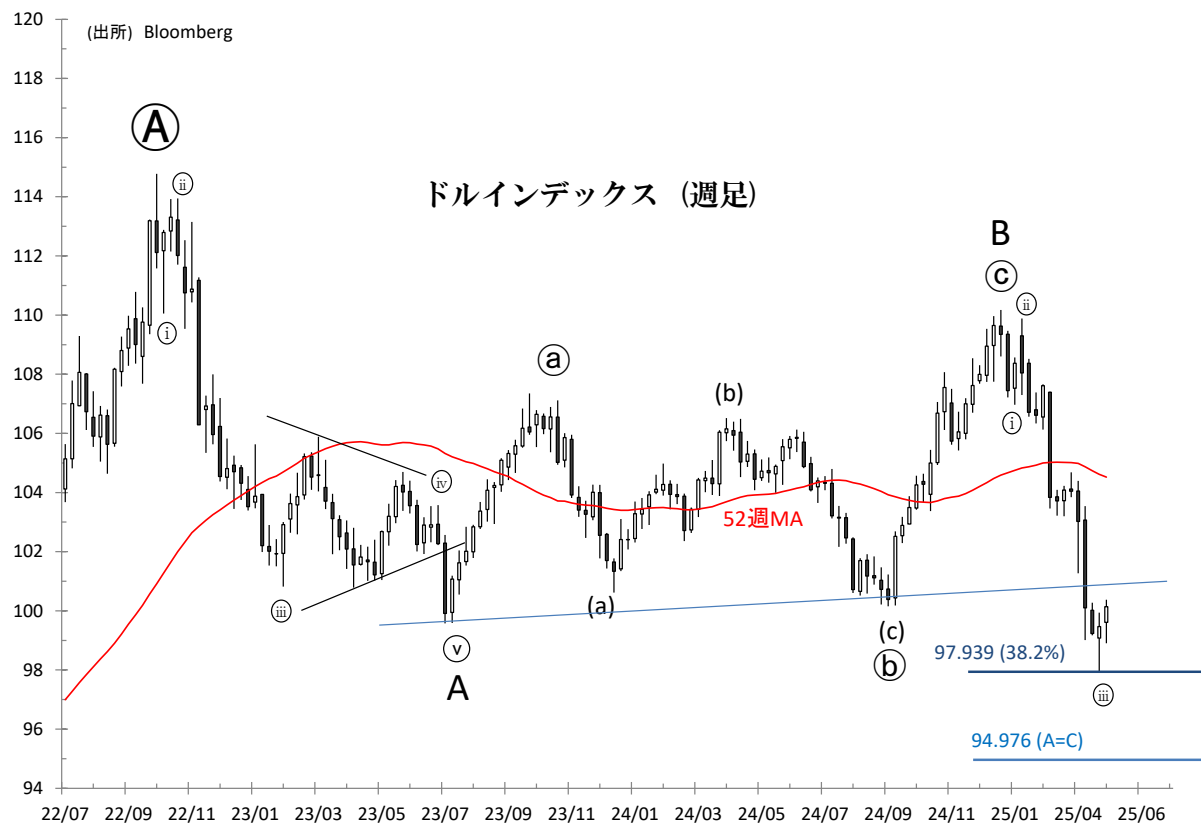
投機筋の円買い持ち高は 3 週連続増加、過去最大を更新(2025 年 4 月 22 日時点)

IMM 通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は 3 週連続増加。円買い持ちは前週の 151.08 億ドルから 154.7 億ドルと過去最大水準をさらに更新しました。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

ドル指数は 4 月 21 日安値(97.921)を以て、フィボナッチ・サポート[97.939](08 年からのドル高に対する 38.2%戻り水準)をちょうど達成しました。予想された通りドル安は一服、リバウンドとなっています。このリバウンドは C 波中マル iv 波に相当すると思われます。

マル ii 波がジグザグだったことから、マル iv 波は保ち合い相場となりやすいでしょう。保ち合いの後には、C 波中マル v 波のドル安基調が再開し、**[94.976](A=C)**を試すことでしょう。

一方、C 波自体が終了している可能性もあります。

この場合、22 年からの A-B-C ジグザグは完成し、それに続く(X)波に入ったとみられます。(X)波によってドル指数は、今後の数カ月タームで上昇するでしょう。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
